

Asia Indicators

発表日: 2022 年 11 月 25 日(金)

台湾の輸出受注は一段と頭打ちの様相 (Asia Weekly(11/21~11/25))

～米中摩擦の激化、世界経済の減速懸念など外需環境は急速に悪化している～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522/050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
11/21(月)	(タイ)7-9 月実質 GDP(前年比)	+4.5%	+4.5%	+2.5%
	(台湾)10 月輸出受注(前年比)	▲6.3%	▲1.0%	▲3.1%
	(香港)10 月消費者物価(前年比)	+1.8%	--	+4.4%
11/22(火)	(台湾)10 月失業率(季調済)	3.64%	--	3.64%
11/23(水)	(ニュージーランド)金融政策委員会(政策金利)	4.25%	4.25%	3.50%
11/24(木)	(韓国)金融政策委員会(政策金利)	3.25%	3.25%	3.00%
11/25(金)	(マレーシア)10 月消費者物価(前年比)	+4.0%	+3.9%	+4.5%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[台湾]～米中摩擦の激化の余波に加え、世界経済の減速懸念も重なり輸出受注は頭打ちの動きを強める～

21 日に発表された 10 月の輸出受注額は前年同月比▲6.3%と 2 ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月(同▲3.1%)からマイナス幅も拡大している。前月比も▲4.26%と前月(同▲0.89%)から 2 ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。財別では、これまで比較的堅調な推移をみせてきた主力の輸出財である半導体をはじめとする I T 関連財や電子部品関連に下押し圧力が掛かっているほか、化学製品関連や金属製品関連など幅広い分野で下振れするなど総じて頭打ちの動きを強めている。国・地域別でも、米中摩擦が激化している余波を受ける形で最大の輸出相手である中国本土向けが下振れしているほか、これまで堅調な動きが続いた米国向けや欧州向けも頭打ちの動きを強めるなど世界経済の減速懸念の高まりが足を引っ張っているとみられる一方、日本向けには底堅さがうかがえる。

22 日に発表された 10 月の失業率は 3.64%となり、前月(3.64%)から 2 ヶ月連続の横這いで推移している。失業者数は前月比±0.0 万人と前月(同▲0.3 万人)まで 3 ヶ月連続で減少してきた流れに一服感が出ているものの、中期的な基調は減少傾向で推移しており、既卒者を中心に減少が続いているほか、非自発的失業者数も減少が続いている。一方の雇用者数は前月比+0.5 万人と前月(同+0.2 万人)から 2 ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。米中摩擦の激化の余波や世界経済の減速懸念の高まりを受ける形で製造業関連の雇用に調整圧力がくすぶる一方、サービス業を中心とする雇用に底堅い動きがみられる。

図1 TW 輸出受注額の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 TW 雇用環境の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア]～生活必需品を巡る物価の動きはまちまちだが、全般的にインフレ圧力がくすぶる状況は続く～

25日に発表された10月の消費者物価は前年同月比+4.0%となり、前月(同+4.5%)から伸びが鈍化した。前月比は+0.23%と前月(同+0.08%)から上昇ペースが加速しており、国際原油価格の底入れの動きに一服感が出ていることを反映してガソリンなどエネルギー価格に下押し圧力が掛かる動きがみられる一方、穀物価格などの高止まりを受けて食料品価格は上昇が続いており、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの状況にある。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+4.11%となり、前月(同+4.03%)から伸びが加速している。ただし、前月比は+0.08%と前月(同+0.32%)から上昇ペースは鈍化しており、輸送コストの上振れに加え、国際金融市場における通貨リング相場調整を受けた輸入物価の押し上げも重なり幅広く財価格に押し上げ圧力が掛かっているほか、経済活動の正常化の動きを反映してサービス物価も押し上げられており、幅広くインフレ圧力がくすぶる様子が見えてくる。

図3 MY インフレ率の推移



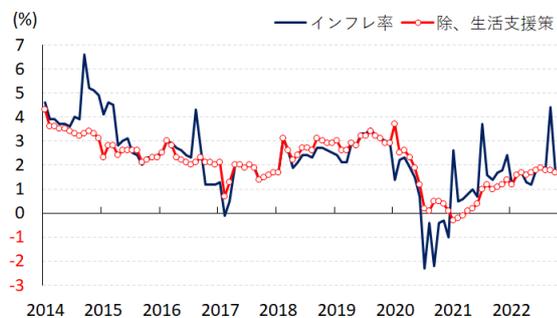
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[香港]～生活必需品を巡る物価の動きはまちまち、景気を巡る不透明感の高まりを受けインフレ圧力は後退～

21日に発表された10月の消費者物価は前年同月比+1.8%となり、前月(同+4.4%)から伸びが鈍化して4ヶ月ぶりの水準に落ち着いている。ただし、前月比は+0.29%と前月(同+0.10%)から上昇ペースが加速しており、穀物など商品価格の高止まりにも拘らず食料品価格の上昇圧力は後退している一方、原油などエネルギー資源価格の高止まりの動きを反映してエネルギー価格は上昇基調が続くなど、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの状況にある。なお、香港においては2007年以降断続的に公営住宅の賃料減免措置をはじめとする生活支援策が実施されており、その影響を除いたベースでは10

月は前年同月比+1.7%と前月（同+1.8%）からわずかに伸びが鈍化している。前月比は+0.09%と前月（同+0.09%）と同じペースでの上昇が続いており、エネルギー価格や公共料金に上昇圧力がくすぶるほか、人民元安による輸入物価の押し上げも重なり財価格に上昇圧力が掛かる動きがみられる一方、景気の不透明感がくすぶるなかでサービス物価は下振れしており、インフレ圧力が相殺されている。

図4 HK インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。